

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第7回 市制100周年幹事会
摘録

日時：令和6年1月16日（火）15：00～17：00

場所：川崎市役所本庁舎 2階ホール

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアマネージャー

幹事 川崎商工会議所 田尻主査（代理出席）

株式会社 チッタ エンタテイメント 若井課長

川崎市PTA連絡協議会 浦山会長

かわさき市民放送株式会社 大西社長（オンライン出席）

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 荻野課長

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長、岸事務局課長、矢口事務局課長 他

コアメンバー：味の素株式会社 内山氏

富士通株式会社 池田マネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

説明者：議案第2号関係 ヤマト運輸株式会社川崎主管支店 御厨 マネージャー

議案第3号関係 Green Neighbors合同会社 齋藤 グリーンコミュニティー
デザイナー

議案第4号関係 マリオレーベル 五十嵐 代表

（敬称略）

1 開会

2 議事

議案第1号：市制100周年記念事業実施計画改定版（素案）案について（資料1）

—資料1について説明

【内藤委員】

事業実施にあたり市内の断片的なものではなく、市内全域にわたって好きになってもらう視点で検討されているものはありますか。

【事務局】

資料に記載しているのは、現在、各局区で検討している事業のなかで、区役所が地域で開催するものや、臨海部のような特徴ある取組だとか、地域限定のものを記載していますが、例えば今年度実施したColors, Future! Summitのデジタルスタンプラリーで市内各地のイベントをつないだ

り、市内で様々なイベントがあることを効果的に広報しながら市内全域を知ってもらう取組も進めていきます。

【内藤委員】

若年層は自分が住んでいるエリアしか知らない人が多いと思うので、市内の様々なエリアの特徴を知ってもらい、エリア間で連携しながらイベントを実施していただくと市内全域を知っていただけたらと思いますので、そういった視点で検討していただければと思います。

【小池事務局長】

今のご意見は、まさに記念事業の考え方の根本にあるところだと思っています。川崎市は細長いので、南北の交流がなかったり知らなかったりすることが多いので、それをいかに伝えていくかというのが我々のミッションだと思っています。ホームページや紙媒体のニュースレターの発行なども含めて可能な限りリアルタイムで市内各地の取組を御紹介していきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

現時点だと実行委員会参画団体が主催する事業などは未確定なものも多いため、なかなか広報が難しいですね。可能な限り早めに広報していくことが大切かと思いますが、紙媒体だと印刷の関係もありますので、デジタル媒体にて早めの広報をお願いしたいと思います。事業者単位でも色々御協力できるところはしていきたいと思っています。

【若井委員】

「知って、関わって、好きになる」について目標値があったほうが良いと思いました。最終的にこの記念事業が終了した際に、どれだけの人に知って、関わって、好きになっていただいたかということ、イベントの開催数やホームページの閲覧数といった報告になってしまうと、片手落ちな感じがします。やはり、目指すべき目標があり、それを達成するためにこういったイベントを実施したという形の方が良いと思います。

例えば、好きになってもらうことに関してだと、10～20代の方に川崎市に対する好感度などを記念事業前と終了後に計測するなど、大変な作業かもしれませんが、その辺りも検討いただいた方がいかと思いました。

【浅岡幹事長】

具体的に何かKPIがあるのが一番分かりやすいですね。おっしゃるように、世論調査とまではいなくても、ネットアンケートだとかでKPIが達成されているかを測定するというのもあるかもしれません。

【若井委員】

例えば、PTAさんをお願いして、子どもたちに、川崎市が好きかどうかを○×でつけてもらうとかはどうでしょうか。

【浦山委員】

そういったやり方もあり得ると思います。現在、会員数10万人を切りましたが、保護者を入れれば30万人ぐらいいはいますし、OBもいる。それなりの規模のデータを取れる可能性はありますね。

【若井委員】

質問項目はシンプルに「今年100周年を迎えることを知っていますか」などにするとか。

【浅岡幹事長】

負担の少ない手法で、何かいい指標を事務局のほうでも検討していただき、対比のため2回紙ベースでPTAさんに御協力いただくなどの検討いただければと思います。

【事務局（石井）】

御意見ありがとうございます。事務局としても、計画策定の中でKPIを設けるか検討しましたが、実行委員会の中だけでKPIを設定するのは難しいと考えております。例えば、市の総合計画の中ではシビックプライドを指標としているものがありますので、記念事業を行うことによるシビックプライドの数値を参考にするとともに、個別の各事業の中でアンケートをとりながら、記念事業を機に「川崎市を好きになりましたか」といったデータも取っていきたいと考えています。

【小池事務局長】

補足でございます。先ほどの総合計画の指標について、当室はシティプロモーションの取組として定期的にシビックプライドの数値を調査していますので、100周年を経て、シビックプライドの指標が上がっていくことを、まずは目指していますが、先ほど若井さんからありましたように、「100周年を迎えることを知っていますか」というアンケートをこれまで様々なイベントにて調査してきましたので、そちらも継続的にやっていくことも検討してまいりたいと思います。全体は市民アンケートによるシビックプライド指標の上昇を目指しつつ、細かなところでは何ができるか検討してまいりたいと思います。

【浅岡幹事長】

現実的に調査の作業量もあると思いますし、一番重要なのは計測するタイミングで、記念事業期間が終了する前の今年中に、既存の仕組みの中でできることを検討していただければと思います。

【向田委員代理 田尻】

質問ですが、ウェブサイトなどのアクセス数は御報告いただけるものなのでしょうか。各種メディアの効果測定についてはどうお考えでしょうか。

【事務局】

ウェブサイトに関しましては、毎月どれくらいアクセスがあり、どのような属性の方が閲覧したかというデータがありますし、また、各種イベントにて実施してきた認知度調査についてもデー

タがありますので、整理して次回の幹事会で御報告させていただきます。

【中山委員】

記念事業の広報について、どこを対象に行っていくかですが、市外に向けても大切ですが、まずは川崎市民に対して優先して行うことが大切だと思っています。南北間で、お互いのことをあまり知らなかったり興味がなかったりということを言われています。この記念事業は全市に渡って様々な事業が展開されていきますので、お互いのことを知る機会となり、ある意味真の川崎市民がつかれる一番大きなチャンスなのではないかと思っておりますので、市内全域で様々な魅力的な事業が行われることを市民に対してアプローチしていただければと思います。

【小池事務局長】

広報のターゲットをどこに置くかということにつきましては、庁内でも当初から議論していました。今、中山様からあったとおり、まずは市民をターゲットに、100周年を機に川崎市民でよかった、川崎市に住んでよかったと思ってもらえるような、そんな取組になるよう進めています。

その中で、市民の方に知って、さらには色々な取組に関わってもらいたい。今後も関わり度合いが強くなっていくことで、市民とのつながりが強くなっていくことなども狙いとしているところもありますので、市民の皆様、川崎市を体感、体験していただきたいと思っています。

また、緑化フェアについては市外から来ていただくことも目指していますが、全体を総じて言うと、やはり市民の皆様をターゲットにしながら、知って関わって好きになってもらう取組を進めていますので、皆様にもそのような取組だということで御理解いただけますと幸いです。

【中山委員】

市民が自分のまちを好きになれば、どんどん自分たちで宣伝して人を呼び込んでくるような、そんな気がしますね。

【浅岡幹事長】

ほかにはよろしいですか。それでは、事務局につきましては、今の御意見を踏まえながら最終調整に入っていただきまして、次回の幹事会で提示していただければと思います。

議案第2号：「脱炭素」プロジェクトについて（資料2）

—資料2について説明

【浅岡幹事長】

今回はプレ事業ですので、本番の事業内容はどのようなイメージでしょうか。

【事務局】

この脱炭素プロジェクトは、市民の方に取り組んでいただきたい複数ある環境アクションの集合体だと思っていますので、このプレ事業はその中のあくまでファーストステップだという認識です。物流の深掘りについては、ラッピング以外にも様々なステークホルダー、サプライチェーン

全体で取り組んでいくという広がりもありますし、物流に限らず、例えば食ロスの観点に広げていくなどもありますので、多数ある取組のうちのひとつであるという位置付けです。

【浅岡幹事長】

では、プレ事業の後継にあたる具体的な企画のイメージというのは、今のところは特にないということですか。

【事務局】

そうですね、具体的な企画のイメージというのは、まだこれからという感じです。

【浅岡幹事長】

事業費については、金額的な妥当性をどう判断すればいいのでしょうか。

【事務局】

金額については、市内に200か所以上ある宅配ボックスのうちの10か所をピックアップしていきまして、その10台のラッピングにかかる費用を基に算出しています。

【浅岡幹事長】

実行委員会とそれ以外の企業・団体で支出を折半という考え方でしたでしょうか。

【小池事務局長】

実行委員会主催事業の基本的な考え方として「共創」がありますので、実行委員会の予算で全て賄うのではなく、企業・団体と共に行なっていくスキームで進めています。ですので、原則としては企業・団体の支出と実行委員会の支出が2分の1というのが基本的な考え方です。あとは7つある実行委員会主催事業のうち、プレ事業である令和5年度では1事業あたり500万円ほどの予算の中で実施していくという考え方がございますので、そういった観点から御議論いただければと思います。

【内藤委員】

数年先の目標を定め、そのためのプレ事業だという位置づけが重要だと思います。たとえ絵に描いた餅だとしても、脱炭素社会実現のため、市民の方に身近なところから取り組んでもらえるよう、100周年を機にプレ事業を実施し、そして最終的に何十年後かに270台の宅配ボックスを皆さんに利用してもらえるようにという、そんなアドバルーン的な人の気持ちをつかむものが必要な気がしました。

【浅岡幹事長】

おっしゃる通りでプレ事業ですので、目指すべき最終目標は何かございますか。

【事務局（石井）】

目指すべきところとしては、溝口発の脱炭素プロジェクトとして、市民一人一人のライフスタイ

ルを変えていきたいと考えています。そこで、今回プレ事業としてヤマト運輸さんと富士通株式会社さんとで、宅配ボックスの活用による脱炭素の取組を行なっていくものです。

そしてこの取組が横展開していき、例えば佐川急便さんや日本郵便さんも加わって横展開していくことも検討していますが、令和5年度はまずはプレ事業という形で実施していきたいと考えています。そのほかにも、まだ具体にはなっていませんが食ロスの削減や環境に配慮して自転車の使用を促す取組なども検討しており、最終目標としては、溝口発、川崎市発で脱炭素に向けてライフスタイルを変えていくことを目指しているものです。

また、目標値については、現在検討中です。

【浅岡幹事長】

来年度についても再配達率の削減がメインテーマになるということでしょうか。

【事務局（石井）】

宅配ボックスの活用による再配達削減だけでなく、食品ロス削減など他の取組についても検討しています。本取組が記念事業だけで終わるのではなく、令和7年度以降も自走させたいと考えており、先ほどの費用分担でもありましたが、実行委員会からは2分の1を拠出し、残りは他の企業・団体が負担という形で、できるだけ自走できるよう進めていきます。

【若井委員】

とてもいい取組だと思います。この御提案だと議論の枠が狭いかなと思ったんですが、私のイメージだと、将来的に川崎駅前が週末は歩行者天国になって、みんなが車ではなく徒歩で駅周辺の大通りを歩いて、買物や食事などを楽しむだとか、そういったことが市内の至るところの駅前できてくるととてもいいと思いました。おそらく海外の都市はそういったところが増えてきているのではないかと考えています。車両を通行止めにして、大通りを歩行者天国にすると、物流の問題やバス事業者などとの調整も大変だと思いますが、今回のこの取組がファーストステップとなり、その先の目標を大きく見せることができるといいと思いましたので、私個人としても協力させていただければと思います。

【浦山委員】

このプレ事業の見せ方として、最終的なビジョンを先に書いておき、そこに至るステップとしてこのプレ事業を位置付けていると理解しやすいのかなと思いました。

最近はずき配が可能なので、例えば人がいなくても荷物が家の前に置いてある日常を最終ビジョンとするなどして見せていくと分かりやすいと思いました。

【若井委員】

川崎発とありましたが、どの辺りが川崎発なのでしょう。

【事務局（石井）】

溝口は脱炭素アクションとして市のモデル地区としており、国からも脱炭素先行地域に指定されていますので、溝口発、川崎市発でライフスタイルを変え、脱炭素を目指していき、それを全国

へ波及させていきたいと考えています。

【中山委員】

宅配の再配達は社会問題にもなっていますので、そういう意味でいい切り口だと思います。

【荻野委員】

脱炭素というと、いろいろな層の方に身近に感じていただくには少し難しい面がありますので、例えば最近宅急便を装った犯罪が増加しているので、防犯という観点からのアプローチで、さらに脱炭素にもつながるといった見せ方もいいのかなと感じました。

【浅岡幹事長】

脱炭素をテーマに選んだのは、市の重要施策に沿っているところからですね。

【事務局】

そうです、脱炭素は川崎市において重要な施策であるというところでスタートしました。

【浅岡幹事長】

今御意見あったように、波及効果といいますか、防犯といった視点など付加価値としていろいろ波及すると思うので、そういった要素も含めていただければと思います。

【浅岡幹事長】

他に御意見はございますでしょうか。

それでは、この内容で承認といたします。

議案第3号：みどりの共創プロジェクトについて（資料3）

—資料3について説明

【浅岡幹事長】

事業費の内訳は具体的には何でしょうか。

【説明者（齋藤）】

事業費のうち大きい支出としては、トラックガーデンを誘致することに関する費用で、市内農家の方に外注する予定です。あとは、現状検討段階ですが、テント等の備品購入にも充てる予定です。

【浅岡幹事長】

広報には事業費をかけないのでしょうか。

【説明者（齋藤）】

広報については市の広報に掲載させていただきますので考えていません。ただ、ロゴ等を制作して広報してはどうかという意見も出ていますので、場合によっては費用の中に含める可能性があります。

【浅岡幹事長】

ロゴについては、買い取りなのか等、権利関係など考慮すべき点もありますので、御留意いただければと思います。

【向田委員代理 田尻】

トラックガーデンというのは、全国的にもよくある事例なのでしょうか。

【説明者（齋藤）】

よく見るトラックガーデンだと、例えば軽トラックの上にお庭をつくって、それをイベント会場に持ってくるといったものは今までも多かったと思います。今回に関してはそこを少し拡張して、苗木を持っていき会場周辺に配置し、緑と触れ合える空間をつくるので、トラックの敷地から出ていく形となります。また、テーマがもうひとつありまして、例えば香る植物など個性を楽しむようなことも考えています。

【内藤委員】

トラックガーデンは、周囲に緑がないところに持って行って緑を楽しむようにするのがコンセプトだと思いますが、今回は元々緑のある公園内で実施するので、場所ごとのトラックガーデンの有効性について、エリアに合った展開を実証していただければと思います。

【中山委員】

この事業の中で、木育やワークショップなども含まれていますが、かわさきSDGsパートナーの中にそういった取組を行なっているNPO法人や地域団体も多くいらっしゃるのので、そういった方々にもお声がけをしていくと取組が広がり、オール川崎市の取組になっていきますので、その辺りも検討いただければと思います。

【荻野委員】

この取組の狙いのひとつとして、自分の地域とのつながりについてのアンケート結果がありましたが、どのあたりの層をターゲットにしているのかが気になりました。毎日働いていると、なかなか地域とのつながりの機会がないと思いますので、どの層の人たちが一番地域とのつながりが浅いのが見えると、より具体的な取組に活かせるのかなと思いました。

【事務局（矢口）】

アンケートについては、市民の1,500人ほどを無作為抽出した結果なので、特定の層を対象としたものではありません。今回のプレ事業では、等々力緑地に訪れた方のような層がどう活用し、何が好まれるのか、具体的な反応を見てニーズ把握をしたいと考えています。

【若井委員】

今回、トラックガーデンに60万円の費用をかけて実施することですが、これは継続的に行っていくのでしょうか。

【説明者（齋藤）】

トラックガーデンは、まずは地域のみどりに対するニーズを掘り起こすツールだと認識しています。トラックガーデンだけだとコストがかかってしまいますので、最終的には、既存公園のように既にインフラが整っている場所での実施にシフトしていくのかなと思っています。

また、企画検討の中で、溝口でパレットガーデンをやっている団体の方からもお声をかけていただいたりしましたので、そういった方々も巻き込んで今後は自走させていきたいと思っています。

【浦山委員】

いろいろなところにトラックガーデンが行き、そこで人のつながりをつくり、その中で生まれた取組、ノウハウを積み上げていくと更なる取組の発展につながるんじゃないかと思いました。

【浅岡幹事長】

ほかに御意見、御質問はありますか。

それでは、承認とさせていただきます。

議案第4号：「音楽」プロジェクトについて（資料4）

—資料4について説明

【事務局】

補足でございます。投影のみの資料となりますが、現在、このようなステージ仕様や運用を考えていまして、様々な方々が出演できるような仕様のステージや、協議会を発足させて管理運営していくというのが、この記念事業を通じて生み出していくレガシーとなると考えています。ただ、実現にあたり様々な協議が必要で、現在、関係機関と調整しているところでございます。

そのひとつとして、高津区役所との連携が必要で、高津区も緑化フェアに合わせてキラリデッキ再生計画というものがあまして、喫煙所の移設など様々検討していますので、こういった取組と連携しながら、この音楽プロジェクトを進めていきたいと考えております。

スケジュールについては、来年度は実行委員会主催事業として様々なイベントと連携することと、11月にメインイベントを開催し、令和7年度以降は協議会を発足してその方々が運営し、他区にもモデルケースとして波及させて展開していくことも考えています。

本日は、実行委員会主催事業としてこの音楽プロジェクトを実施していくことの方向性について御承認いただけたら、今後の具体的な企画の検討に進んでいきたいと考えています。

【浅岡幹事長】

予算等については今後の進行によって、来年度精査する形になろうかと思いますが、方向性として、御質問、御意見ございますでしょうか。

【内藤委員】

溝口での音楽の取組ということで、素晴らしいことだと思いますし、そこで成功させて、ぜひ麻生区にも広げていただき、「やっぱり川崎は音楽のまちだよね」となるように、さらには市内全域に広がるよう推進していただきたいなと思いました。

【浅岡幹事長】

他に御意見はございますか。

では、この方向で進めていただければと思います。

3 報 告

報告第1号：新規参画団体について（資料6）

報告第2号：提案型募集事業について（資料7）

報告第3号：フェス&カンファレンス2024検討状況について（資料8）

報告第4号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業に関する取組状況について（資料9）

報告第5号：協賛状況について（資料10）

—資料6～10について説明

4 その他

令和5年度 市制100周年記念事業スケジュール（案）（資料11）

—資料11について説明

5 閉会

以上